一般質問

○農村婦人の家管理
「利用者にとってより良い施設に」
○大雪への対応
「適正な情報伝達をより早く」

小林政次議員

質問　農村婦人の家で使用者が利用する備品の種類と数量は、どのくらいあるのか。

産業課長　羽釜、せいろ、せいろ敷き、圧力鍋、へら、バケツ等21種類134個となっている。

質問　どのような基準で備品を補充管理しているのか。

産業課長　近年の利用状況は自家用の味噌作りが多く、味噌製造に必要な備品を備え付けている。補充更新は、利用者からの要望をもとに予算の範囲内で行っている。

質問　備品の現状把握はどのように行っているのか。行政の責務として「出来るものは、すぐやる」という姿勢が大切ではないか。

産業課長　速やかな対応を行うための現場の確認を行っているが、修繕に時間を要するものや、予算措置が必要なものがあり、不便をかけている点もある。快く利用できるよう日常点検に努めたい。

農村婦人の家の充実を

質問　農産加工品特に、麹・味噌作りの技術を活かすため農産加工室を活用し、加工から販売まで結びつける方策は考えられないか。

産業課長　農産加工室を利用し、農産物の製造、加工、販売を実施するためには、食品衛生法に基づいた施設の整備、各品目の許可や食品衛生管理者の設置、JAS法、計量法等の要件を満たす必要がある。こうした条件を満たした団体に利活用していただければ、町の農業活性化につながると考えているので、今後研究したい。

質問　2月17日中通りを中心に、県内23市町村において小中学校が大雪の為、休校になったと報道された。当町でも前からの雪の影響で道路状況は極めて悪かったが、学校の状況は、どうだったのか。

教育長　前日に近隣市町村の状況把握に努め、各学校と連絡を取り合い、教職員の通勤のための道路状況や児童生徒の通学路の状況また、16日には降雪が無かった事などを総合的に判断し、町内の小中学校については、通常どおり授業を実施した。

質問　児童生徒や保護者に対する周知方法は防災無線等も考えられるが、どのような内容、方法で行ったのか。それは適正だったと考えているか。

教育長　学校と保護者間で「らくらく連絡網」というメールで、携帯やパソコンを通じて学校からの連絡を受信するシステムを構築している。二小ではこの連絡網を利用して周知した。一小及び中学校では、通常どおりだったために、周知しなかった。学校側の判断で周知した学校と、しなかった学校があったという状況になってしまったので、今後は統一した形で周知に努めたい。

当町でも記録的大雪に（2月17日）

一般質問

○大規模災害対策
「大雪の中役場職員の体制はどうか」
○公共事業安全対策
「労災事故の発注責任はどうか」
○農業政策
「スイーツ開発は考えているか」

古川文雄議員

質問　2月の大雪の際、役場職員の出勤状況はどうなっていたのか。

総務課長　町地域防災計画動員配備基準に基づき対応している。2月8日21名、9日38名、15日47名、16日43名が出勤し、情報収集と除雪の応急措置にあたった。

質問　大雪が予想された中で、十分な体制だったか。招集まで、どれくらいの時間を要したのか。停電や車両停滞もあったが、対策本部は設置したのか。

大雪対策における職員体制はどうか

町長　体制については動員計画基準や積雪量によって対応した。除雪は土木業者に委託している。招集時間はコンパクトな町なので、あまりかからないと考えているが、雪に対する認識が不足していたと反省している。町民の皆様にお詫びしたい。

質問　町発注工事における労災事故の責任をどう考えているか。作業員の職場復帰にはどれくらいの期間があったのか。

総務課長　震災以降2件の事故があった。復帰まで6か月程度かかった。今後、担当課の監督職員により、工事現場の安全管理の徹底に努めたい。

質問　町内の道路状況について、危険個所は何カ所あり、それらの対策は具体的に行われているか。

都市建設課長　23カ所の危険個所を把握している。具体的対策としては、13箇所の交差点改良工事、注意喚起カラー舗装、視線誘導標設置等を行っている。残りについては、交通規制や信号機設置が伴うため、公安委員会に申請及び協議している。

質問　減反政策の見直し等農業政策は大転換期を迎えている。町独自の助成策等は考えているか。

産業課長　国では農業の多面的機能の維持発展を図る改革を進めている。町では農家の皆さんが、こうした制度を有効に活用できるよう支援するとともに、生産コスト低減や有利販売できる流通の確立を支援したい。

質問　10町歩以上の水稲作付を行っている大規模農家は何軒か。今後大規模化を図るにあたり、町としての具体的目標数はあるのか。

産業課長　産業にとって大規模化は重要である。10町歩以上の農家は町に4戸あり、全体農家の0．7％となっている。町としての具体的な数値目標はないが、農業経営基盤に合った規模とすることが大切だと考えている。

質問　農家所得向上策として出荷規格外となった特産品を使った、町の代名詞となるようなスイーツ開発に取組む考えはあるか。

産業課長　町産品の代表的なものとして、きゅうり、イチゴ、リンゴ、桃、梨等優れた素材がある。こうした素材はスイーツと言われるお菓子等加工品に活用できると考えている。成功事例調査や研究を進めたい。

特産品でスイーツを